

トキが舞う出雲を目指して

人とトキ 野生生物との共生

国際保護鳥「トキ」(学名:ニッポニアニッポン)

コウノトリ目トキ科
全長約75cm、体重約1,600g、翼を広げると約140cm。
ドジョウやカエルなど、動物性のエサを好んで食べます。
成鳥は白で、翼や羽の裏は、朱鷺色と呼ばれる独特の淡い橙色です。



写真提供:中国漢中市陝西トキ保護観察センター(中国漢中市)

トキ保護増殖の目的

国際保護鳥「トキ」。日本や東アジアの広い範囲で生息していましたが、生息環境の悪化によって、中国のトキを除いて絶滅してしまいました。

現在は、日本と中国で保護増殖が行われ、国内で飼育しているトキは約150羽になりました。佐渡ではトキの野生復帰を目指し、昨春秋に10羽、今年秋に20羽を放鳥し、観察・研究を行っています。こうした保護増殖事業の一環として、平成16年、国はトキの分散飼育の方針を打ち出しました。分散飼育には、

- ①鳥インフルエンザ等の感染症の危険回避
- ②遺伝的に多様な個体群を複数形成する
- ③トキの飼育・繁殖技術の普及、分散

というトキの安定的存続のために重要な意味があります。「環境の世紀」と言われる今日、行政と市民が共同して地球規模の環境問題に取り組まなくてはなりません。環境への負担を低減し、豊かな自然とのふれあいを保つことや、美しい山、海、川、湖などを後世に引き継ぐ責任があります。

かつては出雲の空を飛翔していたトキを、出雲市の環境のシンボルに掲げ、出雲の自然を守り安全で安心な生活環境を保ち、「人間とトキをはじめとする野生生物が共生できる地域環境」を市

平成20年秋に行われた放鳥(佐渡市)、写真提供:環境省



●トキ保護増殖事業についてのおたすねは
農林政策課
☎2169996

民とともにつくることを目指します。また、環境保全の取り組みのみならず、次代を担う子どもたちの教育や、さらには、環境保全に着目した農業や産業の推進による経済への波及効果も期待しています。トキを飼育していることが、市民の誇りにつながるまちづくりを進めていきます。

トキと出雲

◇出雲地方とトキ

約270年前の文献「出雲国・隠岐国産物帳」にトキの記述があります。また、大正12年の文献には「宍道湖には、しばしばトキ、ハクチョウ来る」との記述があるなど、出雲地方にもトキが生息し飛翔していたことがわかります。

◇漢中市(中国)との交流

漢中市と出雲市は、平成3年に交流を始め、平成8年に友好



ショウジョウトキ



アフリカクロトキ

都市協定を締結しました。訪問団の相互派遣、技術研修生の受入れのほか、文化、経済、スポーツ、芸術など様々な分野で幅広い交流を行っています。中でも漢中市洋県の陝西トキ保護観察センターで飼育されているトキに対し、市民とともに長年にわたる支援・協力を行っています。

トキ近似種の飼育繁殖で飼育員の技術を磨く

平成18年、出雲市トキ近似種飼育施設が完成。飼育技術や孵化(ふか)・育雛(いくすう)



佐渡で研修を受ける伊藤主任飼育員

技術の修得、向上を目指し、アフリカクロトキとショウジョウトキの飼育を始めました。人工孵化や自然孵化の成功を重ね、現在は、アフリカクロトキ23羽、ショウ

ジョウトキ6羽を飼育しています。また、佐渡トキ保護センターの飼育研修に参加するなど、さらなる技術の向上に努めています。

国のトキ分散飼育実施地として決定を受ける

トキ分散飼育実施地にいち早く名乗りをあげ、国への要望活動、トキ近似種飼育による技術習得・向上に取り組んできた実績や地元NPOの活動などが評価され、平成20年12月19日、環境省から「トキ分散飼育実施地」の決定を受けました。

市民団体「NPO法人いすも朱鷺21」の活動

平成17年1月、出雲市神門地区の住民を中心に「NPO法人いすも朱鷺21」が設立されました。同法人は、トキを環境にやさしいまちづくりのシンボルに掲げ、市が飼育しているトキ近似種のエサとして、無農薬野菜の提供や飼育作業の補助などを積極的に、市のトキ分散飼育に向けた取り組みの側面支援を行っています。市では、こうした活動の広がりを期待しています。

分散飼育実施地へ決定するまで(経過)

平成17年12月	漢中市との交流の中で陝西トキ保護観察センターのトキの認養開始
平成16年5月	国が「トキ保護増殖事業計画」を告示
平成17年5月	トキの分散飼育実施地に指定されるよう国に要望
平成17年10月	以後、要望を重ねる
平成17年11月	NPO法人いすも朱鷺21設立
平成17年11月	出雲市トキ保護増殖基本計画策定委員会を設置
平成18年3月	環境省に要望とともに「出雲市トキ保護増殖事業基本計画」を提出
平成18年4月	出雲市トキ近似種飼育施設完成
平成18年4月	アフリカクロトキ5羽の飼育を開始
平成19年4月	ショウジョウトキ4羽の飼育を開始
平成19年4月	トキ近似種飼育施設で初めてアフリカクロトキの人工孵化に成功
平成19年6月	その後、現在まで9羽の人工孵化に成功
平成20年6月	環境省及び国のトキ飼育繁殖専門家会合の視察を受け、市の取り組みに高い評価を受ける
7月	トキ近似種飼育施設で初めてアフリカクロトキの自然孵化に成功
☆10月19日	環境省からトキ分散飼育実施地として決定を受ける
	※石川県、新潟県長岡市とともに3箇所が決定